

第51号



図書館報



津山工業高等専門学校

巻頭言

みなさんこんにちは。今年度より図書館長を拝命しました。図書館をみなさんの使いやすいものにしていきたいと考えています。図書の閲覧はもちろんのこと、一人で勉強したり、ブラウジングコーナーにおいて数人で勉強したり、あるいはミーティングルームで打ち合わせしたり、などなど、たくさんの方に集まっていただき、大いに利用してほしいです。

コロナがずっと続いていますが、図書館は密になるようなところでもなく、危険なところではありません。保管してある図書を湿気などから守るために、もとより立派な空調設備が設置されていて、換気のいいところです。油断してはいけませんが、安心して利用してください。

図書館では、みなさんの読みたい本なども募集して、予算の許す限り補充しています。シラバスに書かれている教科書は、すでに図書館で調べて購入しています。その他、普段の学習に関連した参考書や、自分では買いづらい高価な本など、希望するものがあれば、受付カウンターに要望書を入れる箱が設置してありますので、題名や著者、出版社などを書いて入れてください。専門書でなくてもOKです。小説でも構いませんし、パソコン関連の雑誌などでも結構です。自分の趣味に関連した、あまり見かけないような、ちょっとこだわりのある本など、大いに結構です。

新聞も数社分購入しています。同じ内容の話題でも、新聞社によって主張が違っていたりして、読み比べてみるのも面白いかもしれません。山陽新聞には津山地域のことが結構たくさん載っています。私は鳥取出身で、岡山で学生時代を過ごしました。特に岡山にゆかりがあるわけでもなく、将来岡山にいるわけでもないと思い、朝日新聞を取っていました。就職が決まって京都の舞鶴高専に行くとき、せっかく岡山にいたのだから山陽新聞を取っておけばよかったなあと、少々悔やんだことがあります。津山以外から来られている方も、作州版などを読めばきっと将来の思い出になると思います。

また、鳥取の話で恐縮なのですが、鳥取市内に定有堂という面白い書店があります。店主の好みによって面白い本がそろえてあり、それにつられて面白い人達が集まり、その人たちが面白い本を要望し、ますますもって面白い書店になるという感じの店です。文士のよく集まる店などというのが、東京にはあると思いますが、その鳥取版という感じの知的でちょっと怪しげな、新しい遭遇のありそうな雰囲気のお店です。津山高専の図書館がそんな雰囲気になればと思っています。



図書館長
横谷 正明

— CONTENTS —

先生お薦めの本	3
ブックハンティング新刊紹介	6
図書委員活動報告	8
図書委員お薦めの本紹介	10
校内読書感想文コンクール	11
ご存知ですか、図書館の使い方	14

先生お薦めの本

先生から学生へのお薦めの本を紹介します



先進科学系 谷口 圭輔

SFのすすめ

この4月に津山高専にやってきました、谷口です。物理を担当していますが、担当科目にこだわらず、私が皆さんくらいの年齢の頃に読んで、心に残っている本を紹介してみようと思います。

振り返ってみると、中学・高校時代は私にとって1番たくさん本を読んだ時期でした。特に歴史ものとSFが好きでした。高校1年生のときだったか、夏休み終了直前にうっかり買った本が面白くてスケジュール管理に失敗し、最後の3日間ほとんど寝ないで宿題を終わらせた、などという今では笑ってしまうような思い出もあります。そのころ、特によく読んでいた作家のひとりが、椎名誠さんです。

今回の紹介記事を書くに当たり、椎名さんの最近の著作についても調べてみましたが、ご高齢となられた今でも精力的に執筆活動が続けておられるようです。実に様々なジャンルの作品を発表されていますが、日常を独特の視点で切り取ったエッセイ、自分の青春時代や家族を題材にした私小説、しっかりした世界観が魅力のSF小説が人気です。私小説の代表作「岳物語」は、中学校の国語の教科書に掲載されていたということなので、ご存じのひともいるかもしれません。今回、どの作品を紹介するか非常に迷いましたが、SFの代表作「アド・バード」を取り上げることにしたいと思います。

この作品は、1990年に第11回日本SF大賞を受賞した、椎名さんの代表作になります。ほぼ同時期に執筆された「水域」「武装島田倉庫」の2作品と合わせて、ファンの間では椎名誠SF三部作に数えられています。主人公の安東マサルが、意味不明となっていた父が生きているという情報を得て、弟とともに父がいるというマザーK市を目指して旅に出る、というお話です。

この世界はとある事情により荒廃しています。様々な異形の生物との遭遇や、アンドロイドのような不思議な存在との出会いを経験し、父を探してマザーK市をさまよう主人公たち。果たして、父との再会は無事果たせるのでしょうか。表題であるアド・バードの「アド」は、アドバタイジング(広告)のアドです。企業の宣伝のために作られた、人語をしゃべったり集団で飛んで空に文字を描いたりできる鳥なのですが、この鳥たちが物語の核心とどう関係するのか、ぜひ想像しながら読み進めてみてください。

椎名さんのSF作品は、何らかの理由で文明が崩壊した世界を描いているものが多く、さらにいうとその文明崩壊の原因が語られることはほとんどありません。登場人物たちにとってはその荒廃した世界こそが日常で、何らかの比喩表現も「その世界にあるもの」が使われています。本作は、荒廃した世界が最後に元に戻るというような、ご都合主義な展開は用意されていません。その割には、不思議とさわやかな読後感があり、もう少しこの世界の先行きを見てみたいような、そんな気にさせられます。本作を読んで面白いと感じた人は、上で紹介したSF三部作の他の2冊もぜひ読んでみてください。それぞれ独特の魅力があり、楽しめると思います。

そうそう。本書は将棋の藤井聡太さんが愛読書の一つとして挙げられたことがあるそうです。その時同時に挙げられたのが、百田尚樹著「海賊とよばれた男」、沢木耕太郎著「深夜特急」という大ベストセラーだったそうで、当時「アド・バード」ってどんな本？と少しだけ話題になったそうですよ。



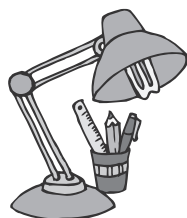
機械システム系 半田 祥樹

『新訂 初級金属学』

北田 正弘：著（内田老鶴圃）

私が紹介する本は、新訂 初級金属学です。私は、初めてこの本を読んだときは衝撃を受けました。その理由としては、数式なしで金属材料学のさまざまな事項について解説がなされている点です。数式がうじゃうじゃした本は、読む気が失せませんか？イギリスの大学の調査によると研究者ですら、数式が多い論文を引用するのを避ける傾向にあるそうです。つまり読みたくない。学生ならもっとハードルが上がるに決まっています。しかし、この本は、ふんだんに図や写真を用いて解説をしてくれます。私がこの本を好きになったのは、原子の並び方の説明が非常にわかりやすかったことがきっかけです。金属の結晶は、さまざまありますが講義で主に触れられるものとして「面心立方格子」があります。この結晶格子のすべり面は111面ですが、どうして111面なのか説明できますか。弱い面がすべる、というのは直感的にわかりますがどうして111面が弱いのでしょうか。そもそも面心立方格子は箱にボールを隙間なく詰めたときに現れる構造です。このボールの並びのどこを取り出したものか、と問われると何となく積まれたままに3層を取り出しているように感じてしまいます。ところが実際は111面がボールを積んだ時の平面部にあたり、普段見ている面心立方格子は平面部が斜めに3層積まれたものになります。これが分かんると111面がすべり面になるのは当然だと理解できます。こんな風になんとなく覚えてしまっているものに、きちんとした説明をしてくれる点で非常におすすめできます。皆さんも、実際の本に目を通してみてください。図をうまく使って解説してくれているので、読むと新たな発見があります。また、私は、初級金属学をきっかけに、出版社である内田老鶴圃が好きになりました。今では参考書を探すときは、まず内田老鶴圃に該当する本がないか必ず探します。他には、アグネも好きな出版社です。みなさんも、いろいろな本にあたってお気に入りの出版社を見つけてください。意外に出版社ごとに色があります。あとは、

内容ごとにお気に入りの本を見つけるのも良いです。私で言えば、プラズマ工学 林 泉著 朝倉出版や新版カリティX線回折 要論 松村 源太郎 訳 アグネなどが挙げられます。自分に合う本や出版社を見つけるのは、これからの大きな力になると思います。



情報システム系 渡邊 朝美

『愛の妖精』

ジョルジュ・サンド：著

国語教員という立場にありながら、あまり読書量は多くない私にも何かあった時に手に取る何度も読み返した本がいくつかあります。同じ本であっても、その時の自分の状態によって心に響くシーンや台詞が異なり、読書することによって今自分が何を求めているのか気づくことも少なくありません。はじめは、私が折にふれて読む下村湖人の『青年の思索のために』を紹介しよう、と思いましたが、学生のみなさんにはあまり面白くないかもしれないと思い、読みやすく親しんでもらえそうなジョルジュ・サンドの『愛の妖精』を紹介することにします。

主人公のファデットは、村の人たちから魔女と恐れられる祖母に育てられ、貧しい生活を送っています。ファデットはいつもみすぼらしい格好をしており、不器量で意地っ張りで憎まれ口ばかりたたき、いたずら好きの少女です。彼女は村のみんなに煙たがられる存在でした。しかし、双子の美少年ランドリーの言葉がきっかけとなり、ファデットは身なりを整え、素直で優しい言葉を口にするようになります。思いやりを持って人に接するようになります。ファデットを嫌っていた村の人たちもだんだんとファデットのことを受け入れ、認めるようになります。ファデットとランドリーは恋に落ちますが、今度はファデットがランドリーにこまごまとした心遣いを見せ、ランドリーは立派な青年として

成長していきます。

物語は、ファデットとランドリーの恋愛と二人の人間としての成長を描いているだけではなく、ランドリーをめぐる村一番のお金持ちの娘で美少女のマドレーヌがファデットの悪評を流したり、ランドリーに執着する双子の兄シルヴィネと奇妙な三角関係に陥ったり、ファデット一家への村人たちからの偏見や彼女との交際に反対する家族にランドリーが立ち向かったりする様も描いており、恋愛小説お約束の胸キュン要素満載で、あっという間に読了してしまいます。

さて、では、なぜ私がここで胸キュン恋愛小説を紹介したかという、それは、ランドリーの何気ない一言でファデットが自己卑下から解放され、生まれ変わることができたから、です。「何気ない一言が誰かを変える（救う）きっかけになる」、「よい友情や恋愛はお互いを成長させる」——『愛の妖精』はファデットとランドリーのみずみずしい恋愛を通して、このようなことを私たちに教えてくれているように思います。ですから、機会があればみなさんにも読んでみてほしいと思い紹介しました。



情報システム系 神谷 健

『ニコマコス倫理学』

アリストテレス：著

人はいかに生きるべきか。この誰もが向き合わざるをえない問題について、人類史上最高の知性の一人が語り始めたとしたら、耳をそばだてて、その人が何を言うのかを聴いてみたいと思わないでしょうか。その話の内容が、誰でも読むことができる形で本になっていたとしたら、それを一度は手にとってみたいとは思わないでしょうか。

この本は、実にそのような本であると言ってよいでしょう。アリストテレスほど、「人類史

上最高の知性」と呼ばれるにふさわしい人は少ないと思われます。彼は西洋の文化や学問の最大の源流の一つをなし、今日でもその偉大さが称えられる古代ギリシャの大哲学者です。彼は多くの学問を体系化し、「万学の祖」と呼ばれるほど多くの分野で、大きな影響を及ぼしてきました。さらに、彼はほとんど一人で、思考一般のありかたを解明する学問である論理学を打ち立て、その体系は2000年以上にわたってほとんど改訂されることなく、学問一般の基礎とされてきました。彼はまた、家庭教師として、史上最大規模の大帝国を築き、世界史に決定的な影響を与えたアレクサンドロス大王の教育にも携わりました。

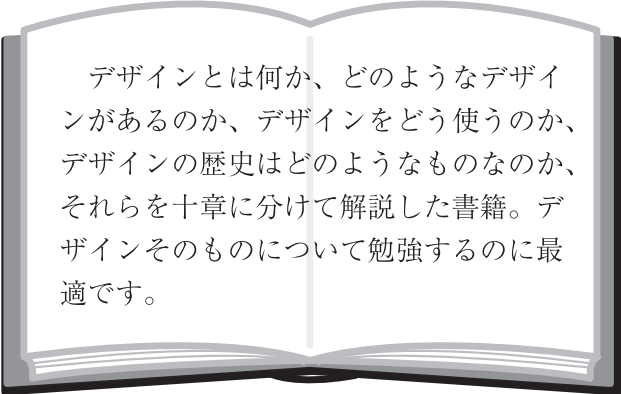
もしそんな彼が、人がいかに生きるべきかについて語っているとしたら、その話に耳を傾けてみるべきではないでしょうか。彼のその話をまとめた文書が、歴史的な名著とされているならば、なおのことです。

この本を読むべき理由の説明としては以上です。すでに十分のような気もしますが、紙幅の余裕もあることですし、もう少し内容に踏み込んでみます。ありきたりな紹介は無数にある教科書なり事典項目なりにお任せするとして、ここではそうした紹介ではなかなか取り上げられないですが、哲学者のあいだでは最も重要とみなされることも多い同書の第6巻の話をしてみましょう。同書第6巻は万学の祖の仕事よろしく、倫理についての本でありながら人間の知性と行為の構造を論理的な観点から分析するという、論理的とも心理学的とも認知科学的とも言えそうな内容となっています。ここで示される論理的な推論の能力を軸とした人間の知性や行為の分析は、近代の代表的な哲学者であるカントやヘーゲル、さらには人間の知性や行為を巡る現代の諸議論にまで絶大な影響を与え続けています。

同書のこうした部分は「いかに生きるべきか」という問いへの答えにわかりやすく直結するものではないかもしれませんが、そのことはそうした問題への取り組みにとっての高度な学問的探求の重要性を教え、巷に溢れる安易な人生観を以て性急に答えとすることの危うさから、読者を遠ざけてくれます。

一般デザイン学

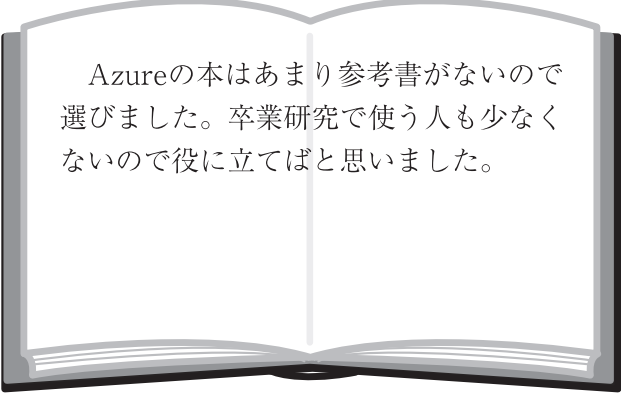
吉川 弘之：著（岩波書店）



デザインとは何か、どのようなデザインがあるのか、デザインをどう使うのか、デザインの歴史はどのようなものなのか、それらを十章に分けて解説した書籍。デザインそのものについて勉強するのに最適です。

ひと目でわかるAzure：基本から学ぶサーバー&ネットワーク構築

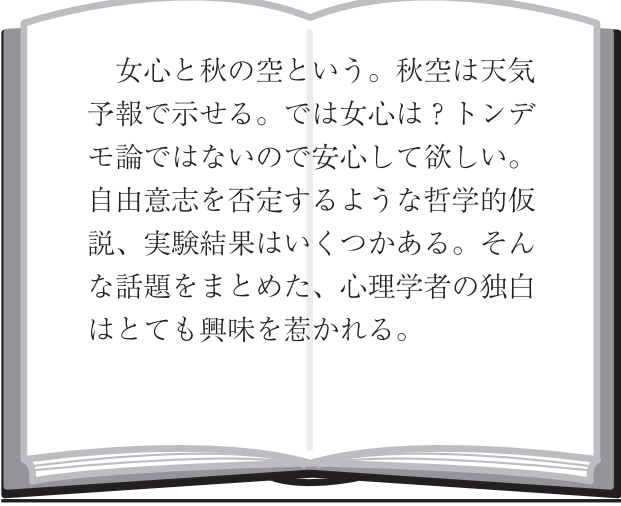
横山 哲也：著（日経BP）



Azureの本はあまり参考書がないので選びました。卒業研究で使う人も少なくないので役に立てばと思いました。

未来は決まっており、自分の意志など存在しない。

妹尾 武治：著（光文社）

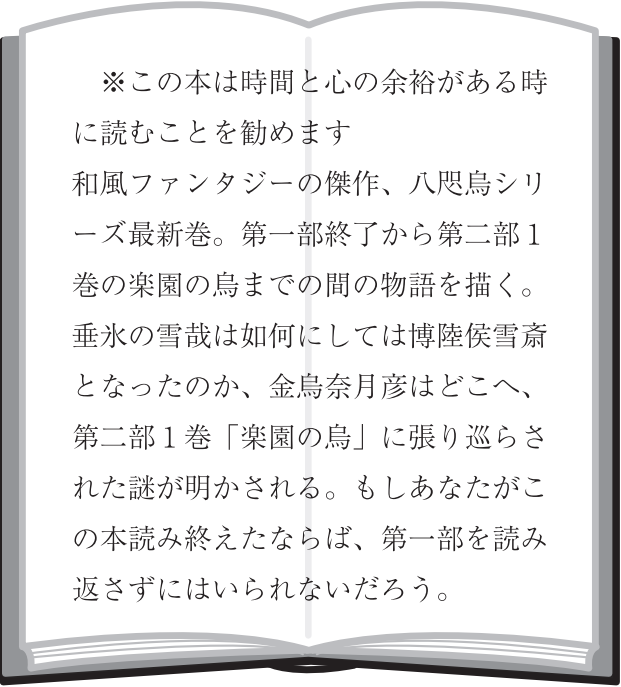


女心と秋の空という。秋空は天気予報で示せる。では女心は？トンデモ論ではないので安心して欲しい。自由意志を否定するような哲学的仮説、実験結果はいくつかある。そんな話題をまとめた、心理学者の独白はとても興味を惹かれる。

ブックハンティング

追憶の烏

阿部 智里：著（文藝春秋）

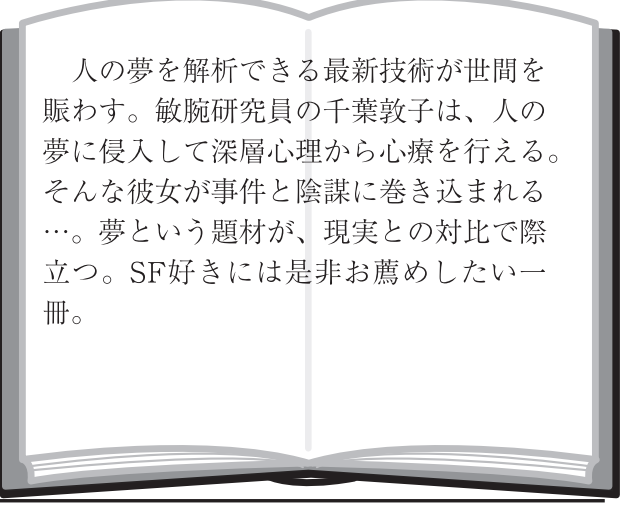


※この本は時間と心の余裕がある時に読むことを勧めます

和風ファンタジーの傑作、八咫烏シリーズ最新巻。第一部終了から第二部1巻の楽園の烏までの間の物語を描く。垂水の雪哉は如何にしては博陸侯雪斎となったのか、金烏奈月彦はどこへ、第二部1巻「楽園の烏」に張り巡らされた謎が明かされる。もしあなたがこの本読み終えたならば、第一部を読み返さずにはいられないだろう。

パブリカ

筒井 康隆：著（新潮社）



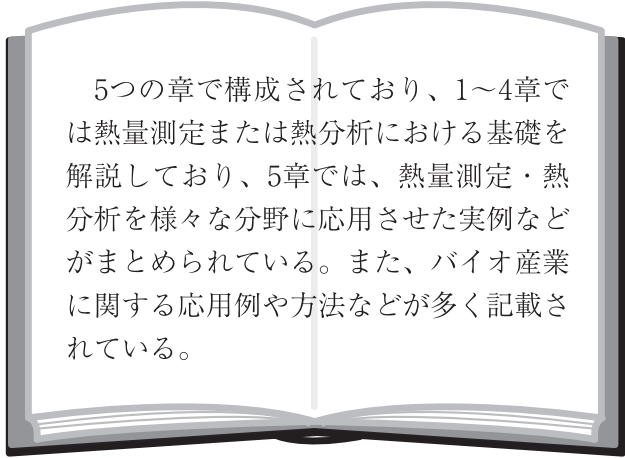
人の夢を解析できる最新技術が世間を賑わす。敏腕研究員の千葉敦子は、人の夢に侵入して深層心理から心療を行える。そんな彼女が事件と陰謀に巻き込まれる…。夢という題材が、現実との対比で際立つ。SF好きには是非お勧めしたい一冊。



新刊紹介

熱量測定・熱分析ハンドブック

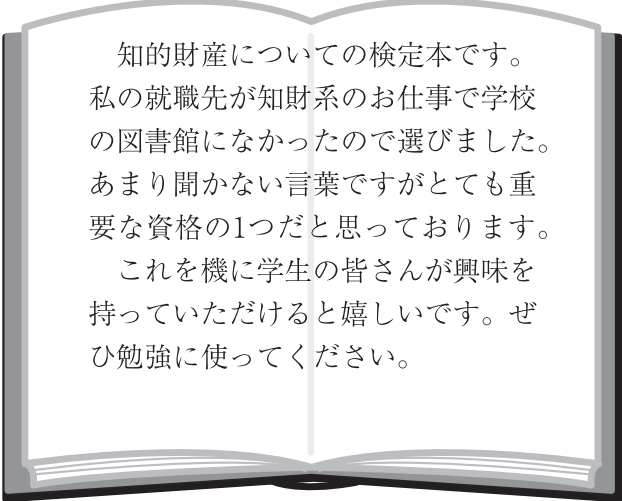
日本熱測定学会：編（丸善出版）



5つの章で構成されており、1～4章では熱量測定または熱分析における基礎を解説しており、5章では、熱量測定・熱分析を様々な分野に応用させた実例などがまとめられている。また、バイオ産業に関する応用例や方法などが多く記載されている。

知的財産管理技能検定公式テキスト3級

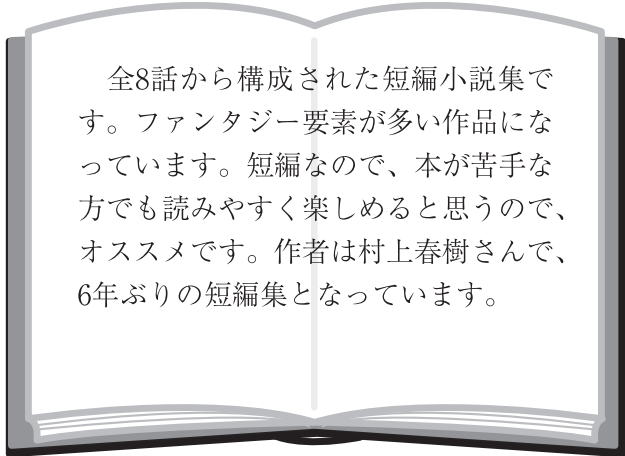
知的財産教育協会：編（アップロード）



知的財産についての検定本です。
私の就職先が知財系のお仕事で学校の図書館になかったので選びました。
あまり聞かない言葉ですがとても重要な資格の1つだと思っています。
これを機に学生の皆さんが興味を持っていただけると嬉しいです。ぜひ勉強に使ってください。

一人称単数

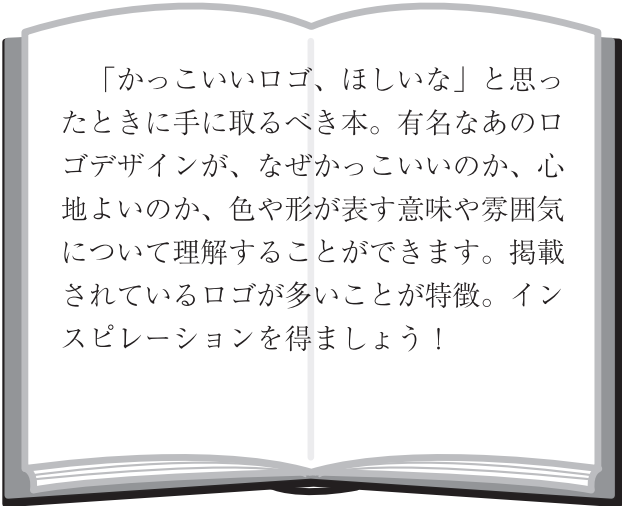
村上 春樹：著（文藝春秋）



全8話から構成された短編小説集です。ファンタジー要素が多い作品になっています。短編なので、本が苦手な方でも読みやすく楽しめると思うので、オススメです。作者は村上春樹さんで、6年ぶりの短編集となっています。

ロゴデザインの教科書

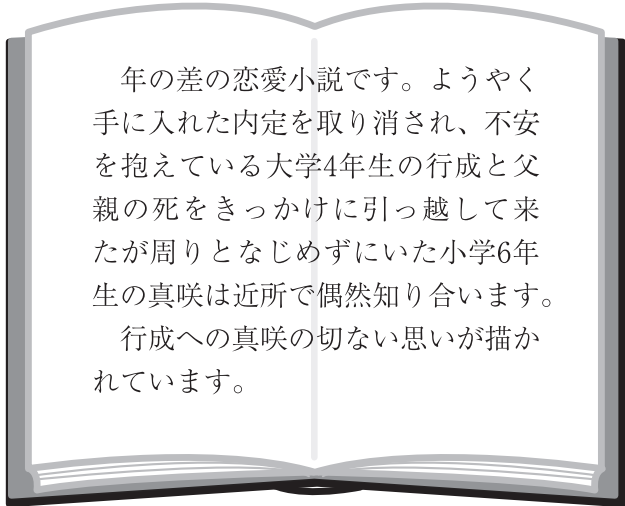
植田 阿希：著（SBクリエイティブ）



「カッコいいロゴ、ほしいな」と思ったときに手に取るべき本。有名なあのロゴデザインが、なぜカッコいいのか、心地よいのか、色や形が表す意味や雰囲気について理解することができます。掲載されているロゴが多いことが特徴。インスピレーションを得ましょう！

静かの海

筏田 かつら：著（宝島社）



年の差の恋愛小説です。ようやく手に入れた内定を取り消され、不安を抱えている大学4年生の行成と父親の死をきっかけに引っ越して来たが周りとなじめずにいた小学6年生の真咲は近所で偶然知り合います。
行成への真咲の切ない思いが描かれています。

図書委員活動報告

図書委員は、弥生祭等催し物班、読書感想文コンクール班、ブックハンティング・交流会班、図書館報班の4班に分かれて活動しています



弥生祭等催し物班

私たち弥生祭等催し班はほとんど集まる機会を作らず、メール等で連絡を取りながら活動をしてきました。今回の弥生祭はコロナ禍での開催ということで前年度のこともあり、本当に開催できるのかと不安に思っていました。しかし、いろいろなごたごたがありながらもしおり作成と古本市を開催することができ、多くの来場者を迎えることができました。また、来年度も開催されると思いますので多くの人に訪れてもらえることを願っています。



古本を寄付していただいた学生および先生方、そのほかにお力添えいただいた方々、本当にありがとうございました。
(電気電子システム系4年 小守 蓮惟)

読書感想文コンクール班

私たち読書感想文コンクール班は、日頃から連絡を取り合い、みんなで集まりながら活動を進めていきました。

今年は新型コロナウイルスの関係で外出自粛されていたせいか、今回の読書感想文コンクールには、たくさんの作品が集まりました。それらの作品を班のみんなで手分けして読み、最終的に良い出来の作品を選ばせていただきました。今回応募された作品は、とてもレベルが高くとても順位を決めるのが難しかったです。



一つ一つの作品で文章の書き方や気持ちの表し方が違い、とても読むのが面白かったです。来年度もたくさんの作品の応募をお待ちしております。
(機械システム系4年 亀山 郁弥)

ブックハンティング・交流会班



私たちの班は、ブックハンティングを行いました。今年は例年と違い、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、オンラインでの実施となりました。班員がそれぞれ学習や教養に役立つ本をウェブサイトから選び、Excelにリストアップして注文しました。

このたび購入した本は津山高専の図書館、

入って右の棚に並んでいます。学生の皆さんの役に立つ本が数多く追加されたので、ぜひ図書館にお越し下さい。

そして、去年開催できなかった他校との交流会を、今年は開催することができました。こちらも感染症対策を施し、津山高専の図書館で美作大学と津山高校の学生の皆さんと交流を行いました。直前まで検討中だったので、開催できたことが幸いです。

(先進科学系4年 菅原 泰生)

図書館報班

私たち図書館報班は、本や図書館の魅力を多くの人に届けたくて、本館報の作成活動を行ってきました。掲載内容の決定、原稿の執筆依頼、各班に活動報告の依頼など、様々なことを班員で分担して行いました。また、今年もブックハンティング・交流会班と読書感想文コンクール班にも協力



してもらって企画を実施することができました。最後になりましたが本館報の作成にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

(電気電子システム系3年 吉弘 一葉)

図書委員 お薦めの本 紹介

スラムダンク勝利学

この「スラムダンク勝利学」は、スラムダンクというバスケット漫画から「勝利するための考え方」、「学べる考え方」を知ることができる作品です。スポーツでうまく勝利をつかむためにはただやみくもに練習するのではなく、目標や考え方を持つことで勝利につながります。

それぞれの章ごとにスラムダンクの漫画のワンシーンが載っているので、どのような状況になっているかを想像しやすくなっています。

いろいろな考え方などが載っているので、もしこの作品を読んでもいけば、いつかこの作品で知ることができた考え方がスポーツだけでなく、自身の生活に役に立つことがあるかもしれません。

スラムダンク勝利学

辻 秀一：著（集英社インターナショナル）

空の境界

二年間の昏睡から目覚めた両儀式が記憶喪失と引き換えに手に入れた、あらゆるモノの死を視ることのできる“直死の魔眼”。式のナイフに映る日常の世界は、非日常の世界と溶け合って存在している…!もはや伝説となった同人小説から出発し、“新伝綺”ムーブメントを打ち立てた歴史的傑作—。

『月姫』や『Fate/stay night』などで知られるシナリオライター、奈須きのこ先生の小説。魅力的な要素を詰め込みに詰め込んだ世界観と、終盤に点と点が線でつながる構成が秀逸な作品です。

きのこ先生の作品が好きな人にはもちろんお薦めですが、伝奇小説が好きな人、硬派な雰囲気を読みやすい文章を読みたい人にもお薦めの作品です。

空の境界

奈須 きのこ：著（講談社）



校内読書感想文コンクール

図書委員が優秀作品を選出しました

第1位

普通を考えさせる

機械システム系2年 難波 勇太

この本を読むきっかけになったのは、本の帯に書かれた「普通」という文字に興味を湧いたからだ。世の中では、普通が良く、普通でなければどこかいけないかのように感じさせられる時がある。普通というのは、いったいどういうものなのか。基準や決め手となる何かがあるわけではないように思う。それぞれを取り巻く環境や価値観、勝手な決めつけから、それぞれの普通をそれぞれが作っているのではないか。その普通が何なのか興味を持ちながら、この本に引き込まれていった。

この本は、大阪で暮らす家族の様子を一人ずつまとめた、六つの作品からなる連作短編集だ。男なのに、女なのに、母親ならもっと、父親のくせに、と世の中の普通に上手く当てはまらない人たちをありのままに描いた作品であり、普通、決めつけ、差別、違和感などに苦しむ家族の関わりを描いた作品だ。

主人公の男の子は刺繍を趣味としていた。男なのに？ 確かに普通はそう思う人の方が多いかもしれない。現に主人公の母親も思っていた。私もそう思った。だけど読み進めていくうちに、刺繍には力強い由来があることや、刺繍の奥深さを知った。確かに女の人のやることという固定的な考えがあるのかもしれない。だけど男の人がやっても何らおかしくもないし、恥じることはないだろう。これこそが個性なのだと思う。

「調理や裁縫に長けているということは性別を問わず、生活力、と呼ぶべきではないだろうか。機械に強いとか、数字に強い、などもまとめて生活力だ。それぞれが自分の得意分野の生活力を持ち寄って生きていくのではダメなのか。」と主人公は言う。

確かに、考えやできること、特性が同じ人ばか

り集まったら、まとまりは早いかもしれないが、新たな発見や刺激を受けることはできない。固定的な価値観だけで決めつけをし、普通という枠にはめることは、愚かなことだと思う。

第三章では、母親ならもっと、と言われ、愛情がないわけではなく、ただ接し方が他と違うだけの女性が、普通ということの窮屈さを感じていた。にもかかわらず、我が子には普通を求め、子供のことを思うがために何かと先回りをし、失敗をさせまいと、我が子の本来の思いを止めようとしていた。そんな時に祖母が言った言葉がとても印象に残っている。「あの子には失敗する権利がある。雨に濡れる自信がある。」だ。

大人は、自分の歩んできた経験から、確かに成長途中の子供よりは遥かに生き抜くための道を合理的に選ぶ力があるはずだ。だけど、本当にやりたいことをやりもせず、本来の自分を内に秘め、失敗することなく正しい道を選ぶより、いくつもの壁に立ち向かい、傷つき、挫折を経験し、諦めることになったとしても、それも人生だし、強く生きていくための経験の一つになる。恥ずかしいからと、本来の自分を隠す必要などないと思う。

第四章では、主人公の祖母の話になる。比較的柔軟な思考の持ち主で、主人公や他の家族の個性を温かく見守り、時には助言していく祖母も、ある失態に気がつく。主人公の友達に「女の子なのに数学が得意なのね。」とつい言ってしまったのだ。

人は、日常の中で意図せずして「普通」を押し付ける側に回ることもあるかもしれない。他者に「普通」を強いる側にいるかのように見える人もまた、過去のどこかで「普通」を強いられる側であったのかもしれない。

異なった考えの持ち主や、異なった特性を持つ他者を否定せず、「受け入れる」または、受け入れるまではいかなくとも、「そっとしてあげる」といった心遣いを尊重する世界になればいいと思う。普通の人とはどんな人なのだろう。普通の人

なんているのか。同じ特性の人間は、多数必要ないし、そんな世の中は面白くないと思う。

(寺地 はるな『水を縫う』)

第2位

見えない怪物

情報システム系2年 川上 功介

『無意識のバイアス』その本を見つけたのは偶然だった。私は土曜日に高専にある図書館へ行き本を借り、日曜日にその借りた本を読むという習慣の下、生活していた。この習慣は、一週間の内最も多くの時間を自由に扱える休日にインターネットを用いることで、一日を無駄にしないためである。そうした習慣の下、ややだるい体を引きずりながら図書館へと向かった。いつもは、「哲学」のジャンルの本を拾っては読んで、を繰り返していたが、その日は少しジャンルを変えようと思い、何かいい本はないかと探していた。そこで見つけてしまったのだ。『無意識のバイアス』そう書かれた本は、その本棚の中で一番きれいだった。これは比喩ではなく、まるで本屋で売っているまだ誰も読んでいない状態のようだったのだ。私はその本を見つけるや否や、発行日を急いで確認した。そして驚きと歓喜で声が思わず出そうになった。そこには「2020年発行」と書かれていた。図書館の本は大体が数年前のもので、こういった新刊は誰かが読みたいから買ってもらおうといったことがないとまず現れない。なのに、これは誰にも読まれていないのだ。さらにまだ一年前の新刊ということは、そこから得られる情報は限りなく最新のものに近いということを表す。もうこれは読むしかないと思い、勢いのままその本を手に取り借りた。それがこの本を読むに至った経緯である。

この本は「黒人と白人との間に生まれる差別とはなぜ起こってしまうのか」ということを、黒人である著者エバーハート自身が、半生で体験した様々な出来事を踏まえて論理的に説明するという構成の自伝である。読んだ感想を一言で表すのであれば、それは「恐怖」であると思う。なぜそのような結論になったのか語るには、まず「バイア

ス」について語らなければいけない。

「バイアス」とは、人間が長い時を生きる上で、何度も繰り返し起こることを無意識下である程度決めつけて、効率化を図るための偏りである。例えば、「リンゴ」と聞けば、「赤くてやや丸みを帯びたリンゴ」をイメージしてしまうことである。これは至極当然のことであり、ある意味方のないことでもあるのだが、本書ではこの「バイアス」が黒人を差別する時にも起きていると言う。これがいかに問題であるのかを具体例を持ってあげると、アメリカでは、国民の多くに「黒人」＝「野蛮、暴力的、乱暴」といったイメージが刷り込まれている。そして、国民にとどまらず、警察すらもそのイメージにとらわれている。つまりアメリカでは、黒人はただ街を歩いているだけで、警察に怪しいと思わせてしまう可能性が白人よりはるかに高いのである。そしてさらに、その国民たちは無害な黒人を勝手に凶悪犯と決めつけ、通報してしまう事例を起こしているのだ。この「バイアス」の生み出す影響は、黒人と白人の違いだけにとどまらない。今この世に存在しているすべてのものに、それぞれ「一般的に〇〇」ということが浸透しているのだ。

このように「バイアス」は、マイノリティーな考えを除去し、マジョリティーに染まるように働き、人の心に強く影響を及ぼすのである。そして、このマジョリティーが負のイメージで形成された時、一人の人間では到底勝つことのできない「見えない怪物」となって、容赦なく襲ってくるのである。

だから、この本を読んだ時私は、「怖い」と思ってしまったのだ。今まで考えて発言してきたすべての言葉が、無意識に何かによって操作され、意図的にそういう発言をするように促されてきたのではないかと考えてしまう。

しかし、本書もただいたずらに人を怖がらせたわけではない。この「バイアス」への対策をしっかりと述べているのだ。それは、「意識をすること」である。もう少し詳しく言うと、一人ひとりが自身にはこういった「バイアス」が存在し、それが目の前にある出来事をどう見るかを決めていることを自覚し、その判断が本当に正しいのか意識すればよいということだ。そして、「バイアス」はそうした行動を通して、上書きすることができるのだと言う。

この本を読んで私は、差別とは簡単に片付くようなものではないこと、国、教育、習慣、歴史などの様々なものが複雑に絡み合い、「バイアス」という形で人々に影響していることが分かった。そのことを一人では無理と投げ捨てるのではなく、正しく向き合うことが必要であるということを学ぶことができた。

(ジェニファー・エバーハート／山岡 希美 訳
『無意識のバイアス 人はなぜ人種差別をするのか』)

第3位

健聴者と聴覚障害者の考え方

情報システム系2年 植田 海

『図書館戦争』の作中で用いられた『レインツリーの国』という小説が良かったと母に勧められ、私も読んでみた。この本を読んで、人と接する時の考え方が少し変わったような気がした。

本作の主人公、伸行は、かつて読んだ忘れられない小説の感想を検索し、「レインツリーの国」というブログにたどり着く。管理人であるひとみと交流し、やりとりを重ねるうちに、伸行はどうしてもひとみに会いたいと思うようになっていく。ひとみも承諾し、料理店や映画館で時間を共に過ごす、メールで話していた時のように上手いかわない。その後、ひとみが人に注意を払わず、自分勝手な行動をしたことで、伸行が大声で怒鳴る。しかし、それはひとみが聴覚障害を抱えており、気が付いていなかっただけだったのだ。ひとみが頭を下げたことで、伸行は補聴器に気付いた。ひとみは逃げ出した。

この作品で最もいろいろなことを考えさせられたのは、この初めて会った日のシーンだ。この場面で感情が揺さぶられた人は、多いのではないかと感じる。私は伸行とひとみのメールのやりとりを見て、デートのような一日は絶対に上手いだろうと思った。雨の中、外で会話をすると上手く続かなかったことや、ひとみが無理矢理でも字幕映画を優先しようとしたことにも、全く違和感はなかった。正直、伸行が怒鳴った時も、私はそこまで怒れるほど強くはないが、妥当だと感じた

ほどだ。

ひとみが聴覚障害だと気付いた時の、伸行の後悔で胸が押し潰れそうな感覚をつづった部分は、自分の中のもどかしい気持ちを分かりやすく言語化してくれていた。しかし伸行には、後悔とともに、聴覚障害であることをなぜ伝えてくれなかったのかという気持ちもあった。そして、それをメールにしてひとみに送った。この時も私は、自分でもきっとそう感じるだろうなと思った。それまで伸行や自分の考えは間違っていないと自惚れていた。

その後に届くひとみのメールで、自分がどれだけ正しいと思っていても、他の人が正しいと思うかは別なのだと考えさせられた。

「耳のことで同情されて優しくしてもらうんじゃなくて、同情で楽しい一日をもらうんじゃなくて、メールで楽しかったみたいに、普通に会いたかったんです。」

このメールを見て、ひとみは障害を気にせずに、普通の女の子として関わりたかったのだと感じた。

自分が同じような障害を抱えていたら、周りに前もって伝えることが大切なのだろうと考えていた。しかし、周りから気を使われすぎて、引け目を感じることもあるのだ。意識せずとも、耳から情報を得ている健聴者の私には、想像もしていなかった考え方だった。

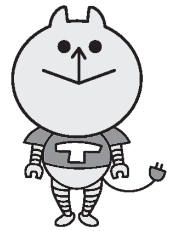
私はひとみの意見を見た時、人はこんなにも異なる考え方をするのだと、当たり前のことを改めて思い知らされた。これはもちろん、障害を抱えている人だけにとどまらない。作中ではこの後も交流が続き、伸行の人生にも悲しい過去があったことが分かる。意図せず他人を傷付ける考えが、自分にも根付いているのではないかと不安になった。

聴覚障害には健聴者には考えられないほどの苦難があって、正しい答えを見つけようとしたり、慰めたりすることが、必ずしも相手の救いになるわけではないことが分かった。障害を抱える人に限らず、悩みを持っている人と関わる時は、自分の視点で考えることも必要な場合はある。しかし、決して考えを押し付けるのではなく、良い答えを見つめることができるような手助けをしたいと思います。

(有川 浩『レインツリーの国』)

ご存知ですか、図書館の使い方

ぜひ積極的に図書館を利用しましょう



学習のための多様な活動空間

- 専門書、一般書、小説
- 電子ジャーナル、データベース
- パソコン、プリンタ
- インターネット、校内Wi-Fi
- 広い机、ホワイトボード
- ミーティングルーム

開館日時

平日8:30~20:00 土曜13:00~17:00

テスト期間中の土日祝日13:00~20:00

長期休業中は平日8:30~17:00 土日祝日は閉館



本を借りる

📖 貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊で、貸出には学生証が必要です。

📖 返却は図書館カウンターもしくは寮のブックポストに返却してください。

Topics!



図書館ツイッターやってます。

@TsuyamaKosenLib



図書館にある本を探す

📖 蔵書検索（OPAC）で請求記号を調べて、その記号の書棚の場所に行きましょう。

📖 書棚の本は分野別に並んでいるので、興味がある分野の書棚を探してみましょう。

市立図書館の本を取り寄せる

📖 市立図書館蔵書検索（OPAC）で予約し、受取場所を本校に指定しましょう。



Topics!



図書館のミーティングルームには寄贈された備前焼の蘭引（らんびき）が展示されています。蘭引とは江戸時代に使用された蒸留器で、酒や水を蒸留して精製し、アルコールや蒸留水を得るための道具です。



本をリクエストする

📖 学生希望図書の申込用紙を図書館カウンターに提出しましょう。

論文を調べる

📖 図書館WEBサイト記載の電子ジャーナル・データベースを利用してみましょう。

過去の卒業研究を閲覧する

📖 全て図書館に所蔵しているわけではありませんが、多くの卒業研究が図書館奥の集密書架にありますので、探してみましょう。なお、一部を除き持出・複写不可です。

情報機器を利用する

📖 プリンタは両面印刷可能、カラー印刷はできません。大量印刷は控えましょう。

📖 ノートPCを図書館カウンターで貸出しています。

📖 校内Wi-Fiの使用は総合情報センターでの申請が必要です。

グループで学習する

📖 ミーティングルームが利用できます。図書館カウンターで予約、申込しましょう。

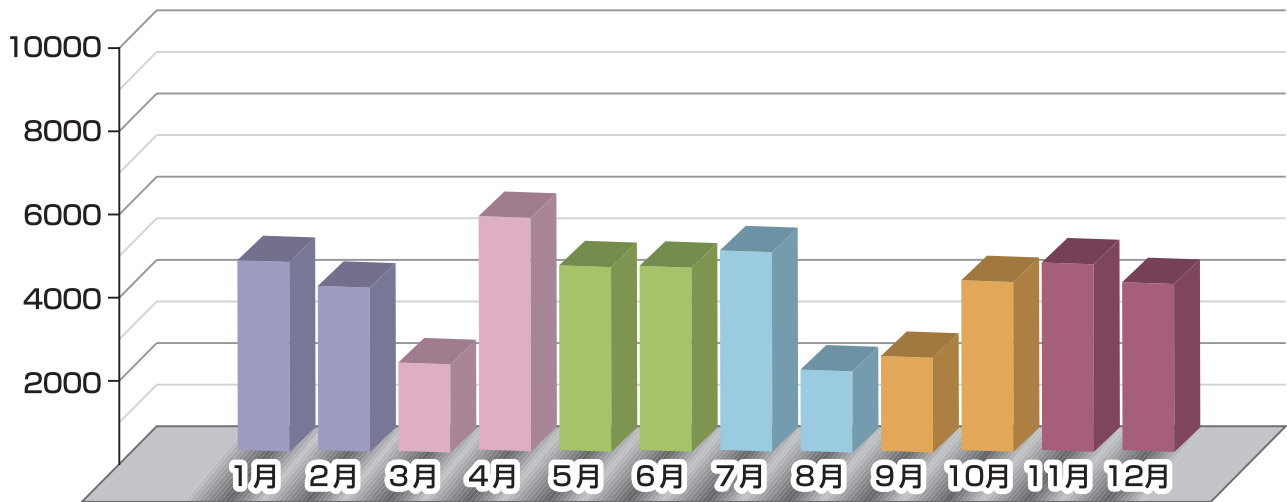
守ってほしいルール

📖 飲食禁止（フタつき容器の飲物のみ可）

📖 携帯電話等での通話禁止

📖 大声で話すなどの迷惑行為禁止

入館者数 2021



貸出ランキング 2021

(期間：2021年1～12月)

No.	書 名	著 者	出版社
1	公式TOEIC Listening & Reading問題集	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会
2	編入数学徹底研究	桜井基晴	聖文新社
3	大学編入試験問題数学/ 徹底演習	林義実, 小谷泰介	森北出版
4	有機化学概説	John McMurry	東京化学同人
5	押し、燃ゆ	宇佐見りん	河出書房新社

編集後記



図書館報51号をお読みいただきありがとうございます。この度、図書館報班の班長を務めさせていただきました。初めて図書館報の制作に携わったということもあり、どのように編集を進めていくのか理解していませんでした。しかしながら班員や先生方に協力していただき本館報を発行することができました。

私はこれまで、テスト勉強やレポート作成を行うために度々、図書館を利用してきました。しかしながら本を借りることはほとんどありませんでした。図書館報の編集を通じて図書館を利用することで面白い本が多くありました。本校には私のようにテスト期間に図書館をよく利用する学生が多くいると思います。勉強の合間の休憩の時に図書館の中を一周歩いてみて下さい。面白い本が見つかると思います。最後になりましたが、原稿依頼を快く引き受けて下さった先生方、本館報を作成するにあたり、ご協力下さったすべての方々にお礼を申し上げます。

(機械システム系5年 峰山 徹大)

発行

独立行政法人 国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校図書館